

令和元年度 第1回野洲市総合計画審議会 子育て・教育・人権部会 議事録要旨

●日 時

令和2年2月4日（火） 14:00～16:00

●場 所

野洲市役所本館2階 庁議室

●出席委員（委員区分毎・50音順）

1号委員：大野 裕己委員

2号委員：中塚 勝委員、苗村 明夫委員、水島 章夫委員、山口 桂子委員、山本 博一委員

●欠席委員

なし

●事 務 局

市木総務部次長、田中健康福祉部次長、田中健康福祉部次長

吉田政策調整部次長、玉川企画調整課課長補佐、垂企画調整課主査、松井企画調整課主事

●傍 聴 者

2名

1 開会

（1）次長あいさつ

2 報告事項

（1）基本構想素案について

—事務局より資料説明—

（2）専門部会の進め方について

—事務局より資料説明—

3 審議事項

「第1次野洲市総合計画 - 改訂版 -」の施策ごとの総括について

1-6 多文化共生社会の実現

◇委員からの主な意見・質問

【委員】姉妹都市交流事業への参加をきっかけに、視点がグローバルになったり、語学の意欲につながったり、非常に有効なプログラムであると思う。インターネットもあるが、人と人とが直接交流することは重要である。中学生等若い人の交流を進めていく必要があり、そこは課題である。

入管法の改正で市内の外国人が非常に増えており、国際協会で行っている日本語教室の待機者が出ている。今後ますますニーズが増えると思うので、サポートがまだまだ必要である。日本語教室は市や、雇用されている企業等とのコラボレーションも必要である。

また、ビジターに対するサポート体制も必要だと思う。

【委員】市民が外国人を受け入れ、多文化共生に対応できるよう、多文化を知り、教養を高める場を設

けることが必要である。外国人の増加は当然進んでいくので、いろいろな違いはあると思うが、啓発することによってそれなりに理解できるようになるのではないかな。

【委員】当事者だけの活動ではなく、市民全体が関わられるような事業があると、全体的な底上げになるのではないかな。例えば、外国人が野洲駅を下りたらどこに行けばいいかわかるような受け入れのための環境づくり、交流しつながれるような場や仕掛けづくり。そういうものがあると、市民全体として取り組めるのではないかな。

【委員】国際協会が国際理解講座を毎年しており、多文化を理解してもらおう場としては、そういう機会を増やしていけばいいのかなと思う。広報で情報提供をしているが、まだ周知が足りない。

【委員】地域の夏祭りに、近くの企業の外国人を招待し、一緒に盆踊りをしている。そういう機会やつながりをうまく活用できればいい。

【部会長】いろいろなところで単発に事業をしているのではなく、お互いが情報交換をし、つながり、また、そういう情報を行政が把握し全体でどうするかという視点を持つことも必要である。

【委員】子どもは学校でも交流事業等いろいろ学ぶが、問題は大人。大人がどれだけ外国人を受け入れる視野を持てるか、それが重要だと思う。

【部会長】今学校は地域に開かれたコミュニティスクールという方向を打ち出しており、子どもが学んだ成果を大人に伝え、学校を拠点に大人も学ぶという方向性も考えられる。

【委員】先ほどの夏祭りの話のように、構えた形ではなく、日常生活の中でつながりを作っていくことでお互いに理解が進むと思う。相手を理解するとともに、地域やそこに住んでいる人のことも理解してもらう。

【委員】子どもはすんなり吸収するので、小さい時からの教育が必要だと思う。小さい時から全ての地域で取り組めるといいのではないかな。

【委員】市としてどのように具体的に取り組んでいこうとしているのか。それが見えることによって、それぞれでもやろうとかいろいろなことが起こってくると思う。アクションプログラムがあるといいのではないかな。

1-1 子育て・子育て支援の充実

◇委員からの主な意見・質問

【委員】親が気晴らしに外へ出たいと思っても、保育園は待機児童が多く受け入れてもらえない。そういうのが重なって虐待が起こり、悪循環となっている。解決は難しいが、話を聞いてあげるだけで気分がすっきりして帰られるので、話を聞く場を作ることが重要だと思う。家に引きこもってしまうことが一番良くないので、どこでもいいから出ていく場が必要である。

【部会長】なかなか相談に来られない人のアウトリーチをどうしていくのかという問題がある。いろいろな取り組みをされているが、運用の中できめ細やかに、届きにくい人がいるという認識で動いていく必要がある。

【委員】何か起こってから対処すべき事業ばかりがあがっているが、そうならないための施策が必要ではないかな。地域の高齢者のサロンのように、地域の人も子どもも集まってしゃべったり、親が自由に使えたりする場があれば、お互いに話をする中でいろんなことが解決できるのではないかな。各自治会でそういう場を設けるという提案もできると思う。市は予算のことばかり言われるが、お金を出さなくてもいろいろな知恵を出しあっていけばいい。

【委員】自治会単位では難しくてもコミセン単位で進められるといい。聞いてあげる、共感してあげる人がいてくれることが大切である。

【委員】虐待を減らしてほしい。そのためには家におられる保護者を何とか外へ出すことが重要である。一度外へ出ると次からは出てくるが、その1回がなかなか難しい。家から出てもらうことを何とかするべきである。

【部会長】子育て力をあげるために地域のサークル等の情報交換等、施策を行ってきた。それをよりきめ細やかに、地域ごとの到達度を見ながら、予防的に取り組んでいくことが必要。また、待機児童の問題がある中で保育士の確保に取り組むことが必要である。

1－5 人権の尊重と恒久平和の実現

【部会長】LGBTの問題等が新しく意識しておくべき重要な課題となる。これは、主体的な人権教育や啓発を推進する1つのきっかけとも成り得る。

【委員】実際に活動を進める役員の高齢化が進んでおり、活動が鈍ってきている。人権啓発は自分たちの住んでいる地域で、身近なところでやることが大切であるという信念で今まで活動をやってきたが、地域で活動をする人権教育推進員の育成が非常に難しい。人をどう育てるかが非常に重要である。また、自分たちの地域を生活しやすい、安心安全で住むことができる地域にしていこうと思うと自治会でどう認識して取り組むかというのが1つの大きな課題となっている。地域のコミュニケーションが薄くなってきており、その問題も絡んできている。

【委員】学校での人権研修に行くと、子どもは話をよく聞いているが、もう帰りにいじめをしている。人権という言葉はよく知っているが、頭の中に入っていないというのを見ていて感じる。「幸せに生活するために、人生を送るために」等出し方を変え、一般的に捉えている人権という考え方を打ち破るような、こんなに大事で必要なんだと思うような、そういう啓発が必要ではないか。また、同時期にあちこちから人権研修の案内が来るが、スケジュールも含め、調整が必要ではないか。

【部会長】運用面において課題がある。また、目詰まりを直してあげる方がいいのではないかという意見である。

【委員】平和教育は非常に重要だと思う。平和に対する考え方が国のトップにより違っており、平和に対する認識を特に若年層に持ってもらうことが必要である。市として平和に対する考え方をもち啓発していくことが必要である。

【部会長】多文化共生や人権とも関わることだが、既存の事業を続ける中で、学習した人が学習成果を他にいかに伝えるか、世代間の差をどうつなげ循環させるか、時代の変化に応じてやり方を考えていく必要がある。生涯学習や教育とのつながりもあり、分野をまたいで派生したり、また他の分野からここにつながる部分もあり、クロスセクションで考えていく必要があることを意識しておかないといけない。

4. その他

3月7日開催予定のワークショップについて、事務局より説明。

5. 閉会